

総務産業常任委員会記録

日 時 令和7年11月5日（水曜日）13時30分～14時58分

場 所 議員控室

出席者 小寺委員長、工藤副委員長、金木委員、逢坂委員、佐藤委員、村田議長
笹浪建設課長、石垣管理係主査

三上商工観光課長、小笠原観光振興係長

オブザーバー 村上議員、阿部議員、平山議員

事務局 鈴木局長、嶋元係長

小寺委員長

それでは、時間になりましたので、総務産業常任委員会を始めたいと思います。

本日の案件は、建設課の除排雪業務についてと商工観光課の羽幌町観光入り込み客数の現状と取組についてを行いたいと思います。

まず最初に、除排雪業務について建設課より説明を受けた後、質疑に移りたいと思います。

その前に、先日10月1日から課長になりました笹浪課長からまず一言ご挨拶いただいた後スタートしたいと思います。よろしくお願いいたします。

1 除排雪業務について

説明員 建設課 笹浪課長、石垣管理係主査

笹浪建設課長 13:30～13:31

このたびは、お忙しい中、総務産業常任委員会を開催いただき、ありがとうございます。10月1日付で建設課長となりました笹浪です。よろしくお願いいたします。

本日は、今年の除排雪業務の内容を説明させていただきます。

それでは、担当主査より説明させていただきますが、説明は着席したまま行いますことをご了承願います。よろしくお願いいたします。

小寺委員長

石垣主査、お願いいたします。

石垣建設課管理係主査 13:31～13:38

建設課の石垣と申します。よろしくお願いします。令和7年度除排雪業務内容についてご説明いたします。

資料の1ページ目、除排雪業務契約についてですが、契約期間は今年度についても例年どおり12月開始とする予定でございます。なお、11月中に除雪作業が必要となった場合は、例年同様住民生活に影響がないように道路維持管理業務の中で対応することとしております。契約方法は随意契約とし、今年度予算規模はトータルで1億5,527万9,000円であります。なお、これまでの実績や今年度の道単価を踏まえまして今年度の委託費を設計し、当初予算内での契約は可能なものと見込んでおります。

次に、除排雪業務の概要についてですが、昨年度から特段変更はございません。1、除雪延長は、車道、歩道合わせ128.9キロメートルです。

2、実施方法は、市街・原野地区については羽幌町道路環境事業協同組合への委託、離島地区については島内の業者へ委託を予定しております。

3、市街・原野地区の業務内容等につきまして、(1)、作業時間については午前5時から午後5時までとし、(2)、作業工種は車道、歩道の除雪作業のほか、路面整正、排雪、融雪剤の散布などを行います。(3)、町からの受託業者への貸与車両については、除雪ドーザ等合計15台であります。(4)、作業目標ですが、記載のとおり車や歩行者が安全に通行できる状態を確保することとしております。(5)、作業基準については、車道及び歩道の除雪は降雪量がおおむね10センチに達した場合としていますが、このほか気象状況や道路状況等を総合的に判断することとしております。路面整正については、通行車両が危険を回避するために道路を逸脱、または反対車線への進入する可能性があるものと判断した場合に行うこととし、排雪については除雪作業において作業目標を達成することが困難となった場合に行うこととしています。

続いて、令和6年度の除排雪業務の実績についてご説明いたします。資料2ページ目の1、稼働実績についてですが、(1)番、市街・原野地区についてですが、除雪、排雪、原野地区合計の稼働時間が前年度比120%の1万320時間30分となっております。次に、(2)の離島地区についてですが、離島地区合計の稼働時間は前年度比の208%の323時間となっております。下の表については、参考程度に見ていただければと思います。

次に、3ページ目、2の委託料実績についてですが、令和6年度の予算内訳で最終契約額は市街・原野地区で2億249万9,000円、令和5年度の1億6,672万7,000円から約3,500万ほどの増額となっております。天売、焼尻地区は、両島合わせ最終契約額は976万8,000円となっており、市街・原野地区合わせた合計が2億1,226万7,000円となっております。こちらの表についても参考程度に見ていただければと思います。

次に、4 ページ目、苦情、要望件数についてですが、令和 6 年度は12月が30件、1 月が23件、2 月が18件、3 月が 3 件の合計74件で、前年度の65件から 9 件の増となっております。苦情の内訳は、除雪依頼の23件が一番多く、続いて排雪依頼の16件、路面整正の15件と続いております。後ほど天気の方についても説明しますが、12月及び2月の降雪量が多かったことのほか、寒暖差による路面状況の悪化による問合せが多くありました。今後も苦情内容等を都度共有して運転手や作業員が把握して注意を払いながら安全で丁寧な除排雪作業を行う体制を整えていきたいと思っております。

次に、5 ページ目、4、過去の気象資料についてですが、令和 6 年度の降雪量は568センチ、最深積雪は146センチと過去10年で比較すると降雪量及び最深積雪は平均を超える量でした。令和 6 年度は、12月に37センチ、2月に40センチなど1日で多くの降雪量を記録する日がありました。

次のページのグラフについても参考程度に見ていただければと思います。

以上で除排雪業務に関する説明とさせていただきます。

小寺委員長

それでは、質疑のほうに移りたいと思います。質疑のある委員は、挙手にてお願いいたします。

ー主な協議内容等（質疑）ー 13:38～14:02

工藤副委員長 まず、確認というか、前年まで起きたというか、町民からいろいろ話があったことなのですけども、日中たくさん降って、そのときには風もあったせいで、寿の農家地区のずっと原野に行く道道があって、それから農家の民家に入っていく道路、横道路というのか、そこが塞がって、その家庭の家族が町に仕事に出ていて、そして帰るときには帰れなかったという、そういうことがあったのですけれども、そういうときも、要するに降雪量が多いときにはきちっと見回りもして除雪しなければいけないという、そういう判断を事前にやって、要するに仕事終わって自分のうちに帰るときにきちっと帰れるような体制はつくってあげないと。その方は、町に親戚がいたから、そこにそのときは泊まったみたいなののですけれども、そういうことにならないようにやはり日中の降雪量をよく見極めて日中であってもきちっと除雪体制をできるような仕組みにしてもらいたいというのは強く思っていますので、よろしくお願いま

す。その辺の体制もきちっとやっていくと思うので、どんな体制でやっていくのか教えてもらえればなと。

笹浪課長 現在市街地区、原野地区、市街地区におきましては組合つくってやっているのですけれども、原野地区はその都度抱えている路線を見て適時入っているというふうに私たちも思っていたのです。今伺いして入っていないというところもあったということだったので、今後またさらに業者のほうに、多分悪いときは見て2回入ったりとかしている業者もいると思うのですけれども、たまたま行けなかったのか、その辺確認は取れていないのですけれども、今言われたような形でもうちょっと業者のほうにも天候状況を見て出る出ないの判断、2回目、3回目とかということも含めて検討していただきたいということを伝えたいと思います。

工藤副委員長 そのこの住民の人の立場に立って考えるとスムーズにはいくと思うのですけれども、朝1回除雪することは日常の中で作業を進めることになるけれども、日中というのはその判断がいいだろう、大丈夫だろうみたいな要するに作業するほうの考えでなくて、実際にその場所はどうなのかというのはやっぱり作業に携わる人がやってもらわないといけないと思うので、その辺上手に手配してもらえればと思います。答弁はいいです。

佐藤委員 ちょっと聞きたいのですけれども、離島地区につきましては天売は小型、焼尻地区は誰なのですか。

笹浪課長 焼尻小型というのがありまして、天売は天売小型さん、焼尻は焼尻小型さんでやっております。

佐藤委員 昨年あたり何か全然排雪の人がいないので、こっち側から行ったりとか、結構苦労した面があるのだけれども、人なんかの確保の部分は何とものなのか。

笹浪課長 昨年度より契約してもらえるような形の積算方法を変えまして、去年はちゃんと人を配置してやってもらいました。今年も昨日ですか、社長さんのほうとお話しして今年もよろしくお願いしますということで挨拶を

交わすと、いいですよみたいな形で今年もやっていただけるような返答いただいたので、安心しています、こちらとしては。

佐藤委員 あともう一つ、車道の除雪についてのおおむね10センチというのは、これどこか決めているのですか。例えばどこの地区はこの10センチ、ここではこの10センチとか、この10センチの決めというのはどこなのか、基準。

笹浪課長 私もちょうと、多分担当者が、その都度パトロールの方がパトロールに向かったところで10センチというのはある程度目安つけている場所があると思うのです。その場所で10センチ降っているとかいうことで多分出動はしていると思うのですけれども、固定的にどこというのもちょうと私のほうで把握は……

佐藤委員 できれば、その人たちが見たところは何も雪降っていなくても、吹きだまりでとんでもなく、全然来ないのでないかって、誤差がいろいろ、例えば港地区ではどこだとか、こっちではどこだとか、やっぱりいろいろあると思うのだけれども、それによってこの地区はやらなければならないとか、結構こういうのが出ると思うのだけれども、せめて役場のほうでも大体どれぐらいの、どういう地点でやっているのか、それについてその年の雪のあんばいだって風によっていろいろたまるところとか、いろいろ不便とかかかっているところあると思うのだ。そういうところもしあれだったらち้อยと、水上さんか誰かやっているのか、あれ、たしか。黄色い車で朝早くばあっと来て、ぐるっとまたUターンして戻ったりしているのだものね。

笹浪課長 今おっしゃられたことなのですけれども、今デジタル系のものを、まだすぐ云々ではないのですけれども、そういうものを今後入れていきたいなという中に観測するシステムというのもあるのです。それを今導入しようかという、まだ実現には至っていないのですけれども、今後適時場所を見つけてそういうものを入れて今後の除雪に生かしていきたいという考えは今持っているところなのです。なので、誰が見てもここで積もっていますよということで出れるようなシステム導入も検討していると

いうことでちょっと……。

佐藤委員 検討って言わず、ぜひともやっていただければありがたいですけども、最後にもしできれば、要望なのですけども、羽幌町の昨年の雪の苦情なんかでよく来る大通り前の道路、観光バスが来る道路だとか、学校施設、そういうところはある程度、やっぱり多少の雪であっても車の出入りするところ、またほかの町からのそういうところがあるので、優先順位ではないけれども、最低限そのところら辺だけは、学校と、その辺だけはきちっと降ろうが降るまいがある程度やっていただければあれなのですけども、そっち側のほうもよろしく伝えておいてもらえればと、よろしく願いいたします。

小寺委員長 答弁はいいですか。

佐藤委員 答弁はいいですよ。伝えておいて。

笹浪課長 分かりました。(強く言ってください。の声) はい。

金木委員 契約期間などについては、例年どおり12月1日からということなのですが、もう既に環境事業協同組合さんのほうとは契約に向けた協議なども進められているのだらうと思うのですけれども、その契約に向けた進捗状況、もう既に契約終わったのかどうか、進捗状況をお聞きしたいと。

笹浪課長 組合側とは10月の中ぐら이었다と思うのですけれども……15日に代表の方とお話しさせていただいて、内容的にはこうですよという説明をした中で、では今年もよろしく願いますということで話はいただいております。それで、契約は12月からスタートなので、今まだ積算の状況もありまして、11月の積算を使って設計させて12月の契約ということで今進んでおります。

金木委員 その中で例えば去年あたりの状況見て何か懸案事項みたいな、協議事項みたいなところ、町としては去年はこうだったから、今年はこうとかということもし可能であれば、もしそういう話合いがあったのであればお

聞きしたいなと、どんな点があったかなかったかというところ。

笹浪課長 話の中では、別にどうのこうのという、そういう話は出ていなく、今委員会で説明しているとおりのことを説明して納得していただいたと私は思っております。

金木委員 あと、これも事務作業と言ったら変ですけども、出勤はおおむね5時からですね。ということは、よし、今日は10センチ降ったから出勤するぞみたいな、そういう判断がいつ頃されて何時ぐらいに指令が出て作業員が何時頃出てくるのかみたいな、そんな手順みたいな流れというのを一回お聞きしたいなと思います。

笹浪課長 パトロールは、たしか4時半ぐらいに行って5時に集合というか、ある程度機械も全部エンジンオンしてすぐ来てすぐ乗れる体制を整えているような作業の手順を踏んでいる形だと思います。

金木委員 一番最後のページの車両の一覧表あるのですけれども、これに載っているのは勘定したら18台だったか、町所有車なのだと思うのですけれども、いわゆる契約をして市街地、原野地区、離島は違うのか、つまり町が契約して行ってもらう車両は全部この町有車、町有の機材だけで間に合っているのかどうか、事業者が自前のものも持って町で委託した分をやってもらっているのかどうか、その辺の状況は分かりますか。

笹浪課長 今ここに出ているのは、貸与車両ということで18台、15台を市街地の貸与として、3台を島に、それで合計18台となっております。それで、あと原野地区に関しては、自前の委託ということで各社のドーザを出してもらって使用している状況でございます。

村田議長 これ何ページ、ページ振っていないから、委託料の実績のところの毎年度のグラフで昨年度が最終契約金が増えたというのは、雪も多かったというのもあるのですけれども、令和5年度と比較して先ほちょっと課長述べた道単価とか、そこら辺の動きもあってこういう金額になったのか、それとも単純に稼働実績のみを積み上げていって6年度がこれだけ

の高い2億二百何ぼになったのか、今年の日単価も昨年度からどういふふうに変わっているのか、同じなら同じでいいし、少し上がっているのであれば、何かそこら辺の説明、分かるように説明していただければうれしきですけれども。

笹浪課長

令和6年度は、やっぱり雪多かったということで排雪、ダンプの稼働も多かったので、時間数もいっているんで、2億に至っていると思います。それで、人件費におきましては、毎年運転手そのものが1,000円ずつぐらいい増加傾向にあるのと燃料代というのでも増加傾向にある、それで今年に関しては去年と車の損料自体はほぼほぼ変わっていないのですけれども、人件費が大きく毎年上がっていているのがあるので、それに見合って稼働が多くなればまた実績も多くなるので、金額も高くなっているのかなとは思っているのですけれども、去年の5年度と6年度の違ひは多分雪の多さだと思ひます。

村田議長

分かりました。今それこそガソリンの税ですか、軽油の引取りだとかということも出ているので、そこら辺もやっぱりこれからそういう部分でいくと、ガソリンは使わないか、ほとんど軽油ですものね。軽油だと、今年度はあまり影響ないという……ですね。やっぱり今、先ほど説明あったようにそういう日単価の中の人件費、その分は特に今皆さんの最低賃金も1,000円超えてという部分があるので、私としてはそこら辺はここで高くなっても、今までずっと見ていても1億8,000万とかという数字あっても2億超えるということはなかなか私も経験がないので、そこら辺が単価的なそういうのも含めてこうなったのかなというのはあったものですから、難しいのですけれども、なるべく予算は使いたくないのですけれども、やっぱりそういう人件費などにはある程度、労働者を確保するという部分でいくとある程度はちゃんと見て組合からきちんと働いている人に行き渡るように注視だけはしていただければなと思ひています。もう一点、これは8月、住民との意見交換の中で苦情として、ここに苦情入れたわけではないのですけれども、除雪する時間が遅くてというのは、それはいいとしても、気になったのは玄関先に雪を置いていかれてという、さっとならいいのだけれども、ごろっとしたものがぽんと置いていかれてという、そういうことも言われたり、羽幌町民の中で早く雪降っ

たから除雪して終わったなと思ったら、町の除雪が来てまた入れていったわというようなことも、これあるとは思うのです。だから、今年導入したドーザもどこで使うのか私分からないのですけれども、同じこういう動くだけのやつですよ。それで、玄関先になるべく入れないように、端にこうついたやつもあると思うのですけれども、今はもう議員辞めてしまった人がよく稚内行ってその話したのですけれども、なるべく玄関先に雪を入れないようにしてあげるという、そういう手、対策って言うたらいいのか、そういうのをもうちょっと、私プロでないので、あまり詳しくは分かりませんけれども、できないものなのか、あとそういうことにたけた機械を導入することができないのか、あのときは雪が入らないようにもうちょっとそのときだけスピード落としたりなんかできないのというようにいろんな意見があったのですけれども、そこら辺の対策って何か、決め手はないでしょうけれども、何か少しでもそういう町民の負託に応えられるような手がないものかどうなのかお聞きしたいなと思うのですけれども、難しいことだと思っているのですけれども。

笹浪課長

確かにダブルカッターというか、横のプラウにまた小さい羽根をつけてやっているというのを、何年か前どこかの町村でやっているということも何か見たことはあるのですけれども、今私どもの買っている機械が雪寒指定路線での購入になっていまして、その中にそういうものが含まれていない、まず。なので、補助として買うのが、後でつけるということは別だと思うのですけれども、今現在買っている機械にそれを装着させるというのは附属として認められていないと思うのですが、それを使ったからといって、羽幌の町見ていただけると真っすぐカッター使って走っていけるところと壁が出ているとか風除が出ている道によって様々だと思うので、今のままのプラウでバックしてもう一度戻ったというほうが多分早いのではないのかなと思うのですけれども、その辺今おっしゃったように何か置き雪の対策として、一つの方法としてそういうものをつけたことによって法律的にいけるのであれば導入も考えていかなければいけない話になってくると思うので、もう少しお時間いただいて業者のほうとも相談して何が、そういうものをつけたほうがいいのかというのを議論してみて今後に向けた課題の一つとして検討していきたいなと思います。

村田議長

そこら辺よろしく、だんだん高齢者が多くなって雪をかくだけならいいけれども、そういうのってやっぱり重たくてなかなか大変な作業になってくるので、少しでもそういうのを軽減できればなということでもよろしくお願いしたいと思います。

もう一点、これはいつもお話ししているのですけれども、最終ページの黄土色の30年とか29年とか、正直言いますと25年以上経過している貸与している機械の中で、いつも言っているのですが、古いものを長く使うというのは、それはいいことだとは思いますが、冬に使う機械って突然ミッション壊れたり、動かなくなったりというところでいくとやっぱり古い機械は不安になると思うのです。これは、町民だけでなく、使っているオペレーターの人もそこら辺気を遣ってなるべく壊れないようには動かしているとは思いますが、ここら辺は町財政厳しい云々といいながら羽幌町も雪との闘いは避けて通れないので、せめてこの25年以上たった部分で例えばアワーメーター過ぎてかなり使っているのであれば更新なり、同じ機種であっても大きさをいろいろ含めてなるべくコストを削減した中で更新なりいろいろしていかないと、ここでもいくと焼尻地区は33年というすごい年数たって、本当にそういうところは何かいい事業を見つけて更新していただければなと、これは要望として聞いていただければと思います。もし何か答弁があればお願いします。

笹浪課長

ここに書かれています焼尻地区のロータリにおきましては、今年市街地区、原野で貸し付けているロータリを更新するので、今この焼尻のものはもう廃棄として、新しく来年の2月か3月ぐらいに来る予定なのですが、それを焼尻に今度持っていこうかなという形で今考えております。ダンプトラックにおきましては、これまだ先の話なのですが、ダンプを1台にしてショベルを買ってショベルでやったほうが効率がよいのではないかとということもありまして、それで雪寒のほうでショベルを購入するということで、これを廃棄するということも今検討している段階なので、ダンプだとどうしても除雪にたけていないものですから、やっぱり時間も要するし、何かいろいろ雪山が高くなるとかという効率性も悪いものですから、ショベルに替えていこうかなということ

今検討している段階です。

小寺委員長　ほかにございませんか。(なし。の声) それでは、ないようですので、これから雪の季節になりますが、契約含めてよろしく願いいたします。それでは、1つ目の議題終了したいと思います。ありがとうございました。
暫時休憩します。

(休憩 14:02～14:10)

小寺委員長

休憩前に引き続き会議を再開します。

それでは、2件目の議案です。羽幌町観光入り込み客数の現状と取組についてです。
商工観光課に来ていただいています。

2 羽幌町観光入込客数の現状と取組について

説 明 員 商工観光課 三上課長、小笠原係長

三上商工観光課長 14:10～14:11

皆さん、お疲れさまです。本日は、羽幌町観光入り込み客数の現状と取組についてということで、昨年からコロナが5類になったということで本格的に観光事業も再開というような感じでやっておりますが、コロナの影響とか天候とかの影響とかいろいろございまして今のところ皆さんが満足いくような結果は出せていないのかなと思いながら、担当職員も観光協会と各産業団体等と連携を取りながら一生懸命観光事業について進めておるところでございます。本日この後観光振興係長のほうから資料に沿って観光事業について説明させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

小寺委員長

それでは、資料の説明をお願いします。

小笠原観光振興係長 14:11～14:27

それでは、資料に沿ってご説明をさせていただきます。

資料は、お配りしている4枚物の資料になります。まず、1枚目のほうを御覧いただいて、まず1つ目、観光振興事業についてということで、まず(1)、令和7年度観光振興事業実績といたしまして、別紙の資料1ということで、2枚目御覧いただければと思います。こちらの資料にあるのは、実施主体としては町、それと観光協会、また実行委員会など、町が関わる今年度実施をいたしました観光振興事業の実績、あと一部今後の予定も含め、それらを一覧にしたものとなりますので、何件かピックアップをしてお説明をさせていただきます。まず、1つ目ですが、町内の事業・イベントのナンバー2にありますはぼろバラフェスティバルについては、昨年度初めて実施をしたイベントで、同じく昨年度開催をしたはぼろ夏まつりと合体させた形で規模を大きくして開催をいたしました。結果としては、昨年を大きく上回る2,000名の来客がありました。当日は、ちょうどバラが満開になってくれたということもありまして、多くの方にバラを楽しんでいただく機会にもなったのかなというふうに思っております。今後は、このバラフェスティバルという名前をつけていますので、よりバラ園を楽しめるような仕掛けなんかも考えてやっていきたいというふうに考えております。また、ナンバー5のはぼろ秋まつりを今年は会場をバラ園に変更いたしまして開催しました。こちらも好天に恵まれまして、約3,000人の来客がありました。出店希望者も増加をしておりまして、町外からも出店があるということもありました。道の駅の盛り上げにつなげていけるようなイベントに今後も育てていければなというふうに考えてございます。

2つ目として、ナンバー4に書いてあります焼尻めん羊まつりについては、2年ぶりの開催で、焼尻めん羊牧場が民営化されてからは初めての開催となりました。開催日の決定が遅れたこともありまして、PRというのが十分にできなかったのですが、以前と大体同じぐらいの400名の来客があり、会場は大いに盛り上がったところではございました。

3つ目がナンバーの7にあります道北ダンスフェスティバルです。こちらは、町内のダンスチームのLUSH☆dance schoolの主催で開催されたもので、町から補助金などの支援はしておりませんが、商工観光課としてはイベントの場所ですとか、備品の貸出し、あとは関係者との調整などの対応を行いました。結果として、道北地区から300人を超えるダンサーですとかアーティストが参加しまして、以前行っていたサンセットサマーライブ以来のにぎわいが感じられるイベントになったのではないかと考えております。

次に、真ん中の2番のところの町外事業・イベント・プロモーション活動についてですが、まずナンバーの2の大通公園バラフェスタへの出店についてははぼろバラ園のPRを目的に今年度初めて参加いたしました。バラ好きが多く集まるイベントで、効果的なPRができたというふうに考えてございます。道の駅プロモーションの一環として、

今後も継続して参加していきたいというふうに考えてございます。

次に、ナンバー4、ナンバー6のはぼろと繋がる日、それとふるさとチョイス大感謝祭については、関係人口の獲得に向けた事業ということで地域振興課と連携をして新たに実施をしているものでございます。観光PRのみならず、ふるさと納税の獲得ですとか、羽幌町への愛着を深めてもらえるような取組についても今後も継続して実施をしていきたいというふうに考えてございます。こちらのナンバー6から10は、今後出店を予定しているイベントというふうになっております。今のところ町を代表する特産品の甘エビがコロナ前のような、当時のようには取れなくなっている中でPRする内容というのも道の駅ですとか、ふるさと納税ですとか、関係人口の創出といったようにテーマを工夫しながら今実施をしている状況でございます。

続いて、一番下のほうの3番目のウェブプロモーションについてでございますが、今年度は離島観光促進プロジェクトにてインフルエンサーの招聘事業を実施いたしました。内容は、旅行系のインフルエンサーとしてとても人気のあるくぼたびのお二人を招いて天売島、焼尻島をメインに旅行した様子を動画としてまとめ、そのくぼたびの各種SNSで動画を公開してもらいました。10月末時点で各種SNSを合わせると、総再生回数は94万回ほどとなっております。動画の公開期限はありませんので、これからも継続して公開されていくことになります。ユーチューブロングの動画は、1時間以上の長い動画となっておりますが、両島をどんなスケジュールでどんな楽しみ方ができるのかよく分かる内容となっておりますので、今後我々の観光プロモーションのほうにも活用していきたいというふうに考えてございます。

資料1の今年度の主な観光振興事業の実績についての説明は以上となります。

1枚目の資料に戻っていただきまして、次に令和7年度の上半期の観光客入り込み状況のほうの説明に移りたいと思います。資料のほうは、3枚目の資料を御覧ください。こちら3枚目と4枚目がありますけれども、上から順番に説明をさせていただきたいというふうに思います。まず、天売島、焼尻島についてですが、上半期では前年よりも425人少ない1万1,618人の入り込みとなっております。コロナ前の令和元年度と比べると4,000人以上の減少というふうになっております。この減少要因としては、コロナ以前に比べて宿泊のキャパシティがかなり減少しているというところが大きな要因なのかなというふうに考えてございます。

次に、サンセットビーチについては、昨年比べて約7,000人増加しまして1万7,324人の入り込みがありました。開設期間中は、悪天候により遊泳禁止の日も多かったものの、ビーチバレーボール大会ですとかダンスフェスティバルの開催日は好天に恵まれて非常に多くの来客がありました。

次に、各イベントの入り込みについては、甘エビまつり、天売ウニまつりについてはコロナ以降は開催できておりませんが、焼尻めん羊まつりは2年ぶりに開催されました。そのほか、羽幌地区ではビーチバレーボール大会、ダンスフェスティバル、はぼろ秋まつり、はぼろバラフェスティバルは全部好天にも恵まれまして軒並み昨年を上回る入り込みがありました。

続いて、次のページに移りまして、はぼろ温泉サンセットプラザについてはほぼ昨年並みの5万5,287人の入り込みとなっております。

次に、はぼろバラ園については、例年よりも大きなイベントを開催しましたので、集客が大きかったのですけれども、数字としては前年よりも2,350人少ない4万5,582人の入り込みとなっています。これは、集計方法が数年前からバラ園にある公衆トイレの自動ドアの開閉回数を基に算出しておりますため、実態にちょっと合わない部分があるのかもしれないというのが今のところの仮説です。集計方法についてももうちょっといい方法がないかというのを今検討している段階でございます。

資料2の令和7年度上半期観光客入り込み状況については以上でございます。

続きまして、資料また1枚目に戻っていただきまして、資料の2つ目の観光施設の現況と方針についてご説明をいたします。まず、いきいき交流センターについてですけれども、今年度は温泉側入り口の階段に手すりを設置したほか、正面玄関の自動ドアの更新、エレベーターの修繕、非常用発電機の交換、ボイラー室の出入口、あとプレハブ冷蔵庫の改修を行ったほか、炊飯器などのレストランの調理器具のほうの更新を行っております。なお、プレハブ冷蔵庫につきましては、ハスコム財団様からの寄附により整備を行ったものでございます。次年度以降につきましては、温泉施設の改修を優先的に実施したいというふうに考えておりまして、その他の設備についてもかなり老朽化が進んでおりますので、随時更新を進めながら将来的な大規模改修についても検討を進めてまいりたいというふうに考えてございます。

次に、はぼろバラ園でございます。はぼろバラ園では、昨年実施をしましたふるさと納税版のクラウドファンディングを通じていただいた寄附金を財源に噴水とベンチの塗装を行いました。今年も10月からクラウドファンディングによる寄附呼びかけを行っておりまして、寄附が集まりましたらあずまやの屋根の修繕ですとか、周りに張ってある防風ネットの修繕などを実施したいというふうに考えてございます。

続いて、サンセットビーチは、昨年度トイレの洋式化を実施しまして、今年度については大きな修繕は行っておりません。次年度以降につきましては、先日の強風で照明がついている電柱、鉄柱なのですけれども、鉄柱が倒壊するなどの影響がありまして、同じタイプの鉄柱が複数残っている状況です。同じく老朽化かなり進んでいることから、

安全面からも外灯については優先して更新を行いたいというふうに考えております。また、ミニプールなどの屋外遊具も塗装の劣化などがかなり見られるため、必要な対応を実施してまいりたいというふうに考えてございます。

続いて、天売島、焼尻島の自然公園についてです。今年度北海道の所管する赤岩展望台トイレの給水設備と、あとガードレールの補修を実施してもらいました。次年度以降は、町が保有している港のさわやかトイレについてはいろいろやっぱり老朽化が進んでおりますので、随時修繕を実施する予定でいるほか、観光事業者ですとか観光協会支部の意見や要望を踏まえまして必要な環境整備を実施していきたいというふうに考えてございます。なお、北海道が管理する施設の焼尻の鷹の巣トイレのシャッターが今閉まらないような状態になっておりますので、こちらは北海道のほうに早期の改修を要請しているところでございます。

観光事業の現況と今後の展望についての説明は以上とさせていただきます。

続いて、3つ目の今後の課題についてでございます。こちらは、地区ごとに分けて説明させていただきたいと思います。まず、羽幌地区についてですけれども、観光の中心である道の駅の魅力化のほうに取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。先般の総務産業常任委員会でご説明させていただきましたとおり、来年度以降の指定管理者の候補者については新しい事業者が選定されましたので、しっかりと事業者と連携をしながら取り組んでまいりたいというふうに思っております。また、道の駅は、サンセットプラザホテルだけではなく、バラ園と海鳥センターも含めて指定を受けておりますので、3つの施設を生かしていくことでほっと・はぼろ独自の魅力を築いていければいいのかなというふうに考えてございます。はぼろバラ園につきましては、昨年からバラフェスティバルの開催ですとか、今年度は大通公園のバラフェスタへの出店などプロモーションを実施しておりますけれども、バラをテーマにしたプロモーションは道の駅の活性化の観点からも継続をして実施をしていきたいというふうに考えております。現在道内のほかの町にあるバラ園との連携についても模索をしているところでございます。課題の2つ目に挙げております観光施設の老朽化についてでございますが、こちらは離島地区も共通した課題になると思いますけれども、老朽化が進んでいる施設については随時修繕を行いながら対応してまいりたいというふうに考えてございます。

続いて、離島地区に関してですけれども、コロナ以降は特に宿泊の受入れキャパシティーが減少しておりますして、観光のハイシーズンになると需要を受け切れなくなっているということも確認しております。また、離島地区においては、人手不足が顕著になってきているほか、宿泊に関しては後継者という難しい問題もありますので、こういった対策ができるのかというところを観光事業者ですとか協会支部の意見、両方踏まえな

がら取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。

資料についての説明は以上でございます。

小寺委員長

それでは、質疑に移りたいと思います。質問がある委員は、挙手にてお願いいたします。

－主な協議内容等（質疑）－ 14:27～14:58

工藤副委員長 観光振興事業の実績というページ、その中にサンセットビーチCUPのビーチバレーボール大会、これが来場者数5,000人になっているのだけでも、別の観光客入り込み状況のページで3,500となっているのだけでも、この違いは何か。

小笠原係長 すみません。こちら違いなのですけれども、サンセットビーチバレーボール大会の開催された日の全体の入り込み客数が5,000人だったのです。イベントだけで考えると3,500人ぐらいなのではないかということで、すみません、こちらの2枚目の資料のほうがビーチ全体の来客数だというふうに捉えていただければと思います。

工藤副委員長 結構このとき人数入ったんですね。

小笠原係長 例年よりも多くお客が入ってくれてまして、というのも前日から前夜祭みたいな形でイベントをやってくれたので、前の日から泊まり込みで来てくれたお客さん多かったですし、チーム数も例年と同じぐらいだったのですけれども、天気も非常にいい日だったので、来客がすごく多かったです。

工藤副委員長 分かりました。

それから、ここの事業の中のはぼろバラフェスティバル、これと、それから秋にやった秋まつり、これも僕会場に行っちゃってちょっと楽しんだのですけれども、結構地方というか、羽幌でない人も来ているような感じ受けたのですけれども、これはネットとかで地方の方にもPRとかという

のはしていたのでしょうか。

小笠原係長 PRのほうなのですけれども、基本的にはSNSですとか、あと新聞にも出していただいたというところで羽幌以外からも来てくれたのかなというふうに思っています。

工藤副委員長 分かりました。
それから、ここの事業のイベントの下の枠にイベント・プロモーション活動というのがあるのですけれども、これは要するに羽幌で年間にやるイベント、例えばこういうイベントがありますよという、そういうPRはもちろんやっていると思うのですけれども、どんな形で羽幌の観光に関することのPRやっているのか教えてもらいたいです。

小笠原係長 PRなのですけれども、この町内のイベントに関して言いますと、基本的にはSNSを使いながら、観光協会のSNSだとか、羽幌町が持っている公式のSNSだとか、バラ園でもSNSやっていたりしますので、各種SNSを使いながらPRをしています。基本的に早い段階で日程が決まっているものについては、できるだけ早く出しているのですけれども、結構近くにならないとイベントが決まらなかったり、焼尻めん羊まつりなんかは今年は日程が決まるのがかなり遅かったので、決まってから急いでSNS駆使しながらPRをしているというところで、本来であればもっと早くイベントの日程が決まれば年度当初からどんどんPRしていけるのですけれども、その辺はちょっと課題かなというふうに思っております。

工藤副委員長 ぜひそういう部分のPRもしっかりやっていって、羽幌でない人も来るようにやってもらいたいと思います。状況を見ると、北のにしん屋さんとか甘えびファクトリーなんかも恐らくそういう部分のPRをしっかりやっていると思うので、結構夏場来ていますから、今言った日程もできるだけ早めに決定をして、そしてPRもできるようにして羽幌町以外の方もここに来てお金を落としていってもらえるという、そういうシステムをつくってもらいたいと思います。

小笠原係長 委員おっしゃるとおりだと思いますので、日程についてはできるだけ早く決めてどんどんPRしていければというふうに思っております。

逢坂委員 まず、細かいのはいいとして、次に行きたいと思うのですけれども、まずイベントを今年これだけの大きなイベント、ページ数でいうと、これは7年度の事業実績の中の1から8番、いろんなイベントやっていますけれども、これは8年度、来年度もこういう形でやっていきたいという町の意向かどうかをまず、新たに何かを取り組んでいきたいとかというのがあれば教えていただきたいと。

小笠原係長 今年やったこの8つの、8つ目は合宿ですので、7つ目までのイベントについては来年も引き続き実施をしたいというふうに考えているところです。新たなイベントというところでいいますと、今ちょっとまだアイデア段階で本決まりではないですけれども、焼尻のほうで今年小さくマラソンイベントを開催したということもありまして、来年もう少し大きくした形で島を走れるイベントやりたいなという要望は来ています。そこは、今詰めているところです。

逢坂委員 それに関連してなのですけれども、当然エビまつりとか、天売のウニまつり、これも中止になっているのですけれども、この辺の復活というのは全く考えていないのかどうか、見通し等があれば教えていただきたいと思います。

小笠原係長 コロナ以降やれていないのが甘エビまつりとウニまつりなのですけれども、甘エビまつりについては今も実行委員会がもうほとんど動いていないような状態になっておりまして、なかなか再開というのが難しいところなのかなというふうに思います。あと、天売のウニまつりのほうは、観光協会さんと先日も話ししに行ってきたのですけれども、やっぱり今人手不足であることと、あとウニが取れないというところもあって開催するのはちょっと厳しいかなという感触でした。

逢坂委員 もう一点、資料の中の4ページの入り込み状況の中の一番下の総計数なのですが、気になったのはサンプルの入り込み、これホテル、いきいき

交流センターかなというふうに思うのですが、極端に激減してきているというふうに私は見るのですけれども、町としてどういうふうなこれは分析というか、されているのかなって、何か魅力的に足りないとか、何か原因があるのかなという、その辺の分析はされているのかどうか、そこを聞きたいなと思います。

小笠原係長 この表の一番下のところの数字で今おっしゃられていると思うのですけれども、こちら令和6年度までは1年間分の数字が全部載っていて、今令和7年度途中ということでまだ9月分までの実績しか入っていないものですから、すみません。サンセットプラザの実績を見ていただくのは、このページの一番上のところのはぼろ温泉サンセットプラザというのが実績になっていまして、これの上半期計というところで比べていただければいいかなと思っていまして、上半期だけで比べるとほぼ前年並みになっておりますので、大きな減少はしていないのかなというふうに捉えています。

逢坂委員 分かりました。
次に、1枚目にまた戻ってしまうのだけれども、これからの来年度に向けての課題の中に道の駅の魅力化、それから観光施設の老朽化の対処ということだと思うのですけれども、これについて具体的に今言える範囲内で道の駅の魅力化はどういうこと考えているのかとか、観光施設の老朽化、各いろんな施設ございますけれども、細かくは要らないので、先ほど説明はいただいておりますけれども、もうちょっと詳しくこういうこと考えているのだというぐらいの程度でいいのですけれども、教えていただければと思います。

小笠原係長 まず、魅力化についてですけれども、サンセットプラザの指定管理が替わるというタイミングでもありますので、新しい事業者さんのほうで出してくれているアイデアなんかも今ありますので、その辺りをうまく活用しながら、外部の事業者さんのアイデアというのももらいながら魅力化に向けてやっていきたいなと思っています。具体的には今僕らのほうで取り組み始めているのは、バラ園のほうをもっとうまく活用して観光客の皆さんにも来てもらえるような施設になりたいなというふうに考え

ておりまして、バラフェスティバルだとかいろいろなこと取り組んでいるのですけれども、今新たに、まだ相手がいることなので、はっきりは言えないのですけれども、道内のバラ園は羽幌含めて4園ありまして、大通公園と岩見沢と秩父別と羽幌という形で4園ありますので、今そこに何か一緒にやりませんかという声かけをして、連携事業というのも何か考えていけないかというのを今模索しているところでした。そうやって道の駅の魅力であるバラ園と、あと海鳥センターも含めてもっと魅力的な施設になっていければなというイメージで今進めているところでした。

あと、老朽化のほうですけれども、これも指定管理者さん替わるタイミングですので、こういうタイミングで温泉の改修というのは早急にやりたいということで、町長、副町長とも確認を取って来年度にもやりたいなというふうに考えております。それ以外にもかなり老朽化進んでいる施設ですので、本当に大規模改修ということも念頭に置きながら考えていく方向で今進めています。ビーチだとか島のほうもほとんどの施設が老朽化していますので、その辺りうまくやりくりしながらやっていければなというふうに思っているところでした。

逢坂委員

何でもかんでも一遍にやれるわけでないので、年次で計画しながら年度ごとにどの部分をやっていくかというのはこれからだと思うので、特にバラ園、道の駅がどうしても羽幌町その魅力化、これ本当になくなって私は、実はバラ園が道の駅ではないのかなというふうにして旅から来る人は言うのだ、どこに道の駅ってあるのですかとか。バラ園が道の駅というのだったら分かるのだけれども、その施設があって、ホテルの中に今取りあえず道の駅という形でやっているの、その辺の難しさも実はあると思うのですけれども、それも含めて今後の課題かなと私自身は思うので、ぜひそういう魅力化を含めてバラ園を生かしていくのだったら道の駅をもうちょっと考える、併設するか何か、併設するといったら大変だと思うので、その辺を含めて今後やっていただければと思います。それで、もう一つ、前回の総務の委員会で町長のほうからもお風呂の大規模改修というのあったのだけれども、例えばする前に、詳しいことは決まっているのかどうか私分かりませんが、どの程度の改造というか、補修というか、改善を考えているのか、例えば1か月、2か月の

スパンで休んでそれを改造するのだというような、その辺の話も出ているのか、出ていなかったら全然いいです。もしそういう案が出ているのであれば、ちらっと教えていただければありがたいと思うのだけれども、その辺どうですか。

小笠原係長 来年度実施したいというふうに考えているお風呂の改修なのですが、男湯、女湯、あと露天風呂も含めてタイルがかなり老朽化して剥がれたり割れたりしている部分が多々ありますので、まずそこを改修したいということで考えています。改修の期間なのですが、今事業者さんに見積もってもらった段階でどのぐらい期間かかるのかという話を聞きましたところ、大体全部終わるのに2か月か3か月ぐらいかかるのではないかというふうに聞いていまして、例えばその期間まず男風呂直して女風呂で交互にやるとか、もしくは全部一回止めてしまってほかのところのお風呂に行ってもらうとか、その辺の運用のほうはちょっとまだ詰め切れていませんので、その辺りは新しい事業者とも今協議進めているところですので、その辺りうまく回るようにやっていきたいと思っております。

逢坂委員 分かりました。初山別の温泉もたしか男湯と女湯交代で何か月か、僕も何回か入りに行ったのだけれども、そういう形だったと思うので、羽幌町は羽幌町のやり方あると思うので、ぜひスムーズにいくように進めてください。
以上です。

佐藤委員 それでは、最初の1枚目の施設の現状と方針について、今のところ次年度以降のはここに載っただけのことをある程度考えているということで、それ以外のことというのはほかに何か考えているということはないですか、この施設のいろんな部分では。大きく大体この2つがメインでやりたいというような格好のあれなのですか、全て。

小笠原係長 まず、こちらに載せていただいたのは、大きな部分とすぐやりたい部分、できるだけ早くやりたい部分というのをつまんで載せさせていただいております。なので、ほかにもいろいろ不具合出ているところもあります

ので、その辺りも随時やっていきたいなというふうに思っています。

佐藤委員

できれば、このようにいろいろ3つも4つも施設ってたくさんある中であそこ、ここちょこちょこ、こっちはちょこちょこ、全てにかければいいってものでなくて、サンセットビーチならサンセットビーチ、これやるのであれば、浜からも聞いてもこれだけ客が今来るように受け入れる側もう少し、上の駐車場のところにしたって1つが壊れれば、それでパイプで補強しましたって、景観もまるっきりにない中で、下の看板にしたって全部剥がれて町の絵一つも描いていないような看板になっているとか、そういうことをやっていて観光客に来ていただきたいという考え方がおかしいのではないかと思うのだ。もう少しかけるのならちゃんとかけて、まず1つよくしてから次に進むとか、そこのあれをちょこっと直しましたとかではなく、今バラ園なんかにしてもそうだし、バラももっと増やすのであれば道路の反対側あれだけ空いているのならあっち側にバラ植えたっていいし、まだまだいろんなことができると思うのだ。それは、やっぱり観光課のほうで少し、あそこがどうだからこうだからって町の人はみんな隣近所の町見たり、いろんなところ施設見て比べるわけだ、やっぱり羽幌町どうだこうだって。オートキャンプ場、隣すごい、苫前、今年もう予約で予約でいっぱいになってしまったとか、初山別はあれだけの敷地ですごくきれいだよとか、町民にすればやっぱり同じく羽幌町にもやってほしいわけなのです。いろんなイベントにしてもこういう施設にしても、その辺のことをもう少し根本的に考え方として、外灯が壊れたから外灯だけ直すとかではなく、やっぱりもう少し考え方を変えてもらわぬと町の人もある程度納得しないし、こっちが言わなくても観光客が逆に行きたいと思わせるような受皿やらぬとなかなかこれからはゆるくないのではないかなと思うのだ。できればそういう考え方で、今後の進め方の中で中途半端なことではなく、ある程度町民やいろんな意見を聞きながら、今年思い切ってビーチならビーチやりますって、それでこれだけのことをやってみましょうやとか、そういうような形で考えていって施設、決して建物が悪いからって客来ないということもないのだ。だから、そういうような考え方を持って利便性なりいろんなことを考えた上で、離島なんかもそうなのだけれども、宿泊施設がないのであれば宿泊施設考えなければならぬだろうし、また駄目なこと分かっている

のに手をかけていかないというのは観光客来ないのも当たり前の話だ。そういう考え方で今後できれば進めていただきたいという要望ですので、よろしく願いいたします。

小笠原係長 委員おっしゃるとおりで、しっかり先を見ながらやっていくべきかと僕は思っていますので、景観が悪くなっているところというのは本当にご指摘のとおりあるので、その辺りもしっかり見て、また全体見ながら考えていきたいと思っています。

村田議長 私のちょっと認識の違いだったのかもしれませんが、先ほど係長がバラ園も道の駅の一部ということだったので、これ誰から言われたのかちょっと忘れてしまったのですけれども、今でも道の駅のラリーでないけれども、スタンプを集めて歩くという旅行者というかがいて、要は海鳥センターが休みのとき閉館していてどこに押しに行ったらいいのか分からないという苦情があって、休みのときは入り口にいきいき交流センターのところに行ってくださいって書いてあるのかもしれないですけども、そういう苦情がちょっと聞こえてきて、同じ道の駅の一部であれば休みのときにでも、どういう形がいいのか、できれば雨の当たらないようなところに休みのときだけぽんと置いて押せるようにするのか、きちんと交流センターのほうに行って押してくださいという看板を立てるのかちょっと検討したほうがいいのかなって、あとこれも誰から言われたのか忘れてしまったのですけれども、羽幌町の道の駅って今言ったように自分も勘違いしていたのですけれども、どこからどこが道の駅なのということが分からないと、ホテルはホテルなのでしょうって、道の駅ではないのでないのって思う人もいるらしく、メインのそういうのがどこというのをきちんと分かるように看板なり、何か案内板、ここ道の駅なのですよというものを、ちゃんと誰が来ても分かるようなものをつっぱり設置するべきなのかなというのも思ったりしているので、せっかくそうやって道の駅巡りをする観光の人もいるので、そういう人方も寄ってくれたらもしかしたらお土産の一つ二つも買っていくかもしれないですし、そこら辺は道の駅としてのスタンス、もうちょっとアピールというか、きちんとしていただけたらなという、これは要望です。何かあれば。

小笠原係長 議長のおっしゃるとおりで、バラ園で今働いてくれている作業員さんたちにもやっぱり問合せが来るようで、あそこに車を止めて道の駅ってどこなのって聞かれるというのが多々あるというふうには僕らも聞いています。実際に国道から入ってもどこが道の駅なのだろうって思うのは自然だと思いますので、まず道の駅として指定されているのはサンセットプラザとバラ園と海鳥センター全部含めて道の駅という形で指定を受けていますので、本当につくりが説明しにくいというふうになっているというのがもともとあるのですけれども、どういうふうに表示をしたらいいのかはいろいろ考えて、看板事業者さんとかにも相談しながらどういうふうにしていくか今考えているところでした。いいアイデアはちょっとできていないのですけれども。

村田議長 非常にやっぱり難しい、自分からしても普通道の駅って入り口があって、そこから例えば海鳥センターがあり、バラ園があり、ホテルがありって、入り口1つで行くのであれば全部道の駅という部分だけでも、羽幌の場合は広く浅くのこんなことから本当にどこが道の駅のスタートなのかということも分かりづらいというのもあるので、今の中でいくと3つとも道の駅ということであればせめてスタンプは3か所に置いて、ここにスタンプあるのですよということは分かるようにするぐらいはしてあげたほうがいいのかなと。私もそういう苦情って言ったらいいのか、そういうことを聞いてなかなか難しいのですけれども、自分も海鳥センターを道の駅だと思っていなかったのも、だけれどもあそこにスタンプ置いてあるのです。ただ、休みの日は閉まっているということなので、そこら辺は本当に知恵を出し合って少しでもいい方向に行っていただければと思います。

小笠原係長 できるだけ伝わりやすいように心がけたいと思います。

村田議長 2年ぶりに開いた焼尻めん羊まつりのことなのですが、入場者数としては1日限りでしたか、盛況に終わったということは聞いていますし、ただ、今までと違って指定管理なり、それから町がやっていた時代と違って私の思いの中でいくと、せっかく民間の方が、島の焼尻めん羊を守っ

ていきたいという業者さんがやってくれている中で、基本的に民間ですから、町からいろんな補助金を出すということは難しいのは分かっているのですけれども、せっかくそういうイベントに協力してくれるということであれば、提供する肉は観光客に高くする必要はないですけれども、逆に民間の業者から仕入れる肉は少し変な話でいくとけちらないでって言ったらいいか、きちんと予算づけをしていい肉を高く買ってもいいから、焼尻めん羊牧場の方にもやっぱりプラスになるようなぐらい、心遣いではないですけれども、経営が大変だということを聞いていますし、それこそうまくいかなくて最後何年かで撤退していくのですということにならないようなことを私やっぱり気にするものですから、そこら辺はやれる範囲でそういうことで協力していくのもいいのかなって思うので、これもできる範囲でいいので、そうやって観光を目的とする部分と産業と島のめん羊を守るという部分も含めて行っていただけるとうれしいなと思いますので、よろしくお願いします。

小笠原係長 実行委員会のほうともその辺また協議して、今あまりめん羊牧場との関わりというのは少ないので、その辺りもうまく中に入ってもらって一緒にやれるぐらいの関係になればいいのかなと僕は思っていましたので、その辺り実行委員会と詰めながらやりたいと思います。

小寺委員長 先ほどの村田議長のやり取りを聞いたのですけれども、海鳥センターにはスタンプはないですね。道の駅のスタンプは、あくまでもいきいき交流センターに1つしかないということで、さっきの話だとどっちにもあつてという話でしたけれども、そこ訂正しないとそのまま議事録に載ってしまうので、小笠原係長、修正というか、正しい情報をお話しいただきたいと。

小笠原係長 先ほどのスタンプの件なのですけれども、スタンプはあくまで道の駅のスタンプとしてはサンセットプラザホテルの中にあつて、海鳥センターには多分海鳥センターのスタンプがあるのではないかなと思います。

小寺委員長 ありがとうございます。
ほかにございませんか。(なし。の声) それでは、以上で羽幌町の観光に

関する調査を終了したいと思います。どうもありがとうございました。
総務産業の皆さんにお伝えします。10月から3月の調査事項受け付けて
いますので、どんどん出してください。よろしく願いいたします。ま
た観光やってもいいと思います。
そしたら、お疲れさまでした。